

同窓会報

NO.25
1979.2

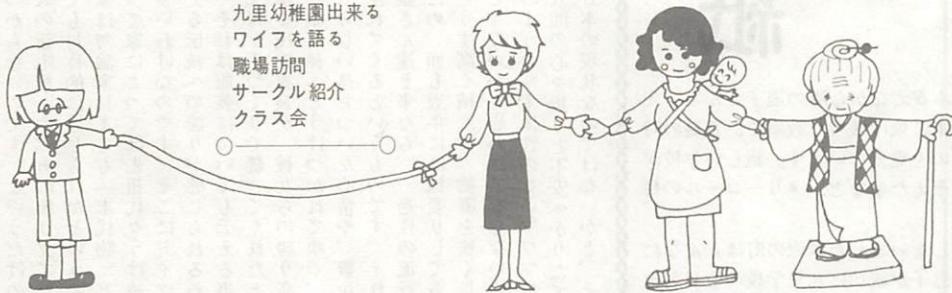
発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL0238-22-0091



同窓会主催記念音楽会
「立川清登と歌おう」

○—主な内容—○

同窓生の皆様へ
九里幼稚園出来る
ワイフを語る
職場訪問
サークル紹介
クラス会



▲高校教育に新しい息吹を
二年前、創立七十五周年の年、学園が決意した最大の
テーマは、眞の教育の追求であり、学園の現状の見直
しでした。新設された生徒館での一年生の合宿ホーム
ルームによる徹底した高校生活の基礎づくり、二・三
年時のコース別學習の向上を目指す教科課程の改善、
生活集團をコース別集團への改編等二年にわたる研究
が着々具體化されております。
このように、母校は絶えざる歩みを、確実に一步一
歩、そして大きく前進しております。

(加藤孝次郎記)

▲待望の幼稚園、明春四月に開園
学園の目指す教育理想の達成と地域社会の要望に対応
し、特に近年、その重要性の叫ばれる幼児教育に取り
くむべく、幼稚園開設の準備が進められていましたが、
去る十二月一日正式に認可がおり、いよいよ明年四月
開園されることになりました。喜ばしい限りです。

設立の思いに、母と子と共に学ぶ場にという願い
があります。卒業後幾歳か経た今、お子さんを通じ、
母校との縁をさらに深め、学びあう場にして欲しいと
思います。

前号にも紹介されたが、本年も多様な活動が行わ
れています。昨年に引続いての第二回サマーセンショ
ン、外人教師一〇名、参加生徒二四九名で、楽しい学
習、幅広い人間交流と、すばらしい二週間でした。ま
たハワイ夏季セミナーへの参加、八月より留学生とし
て、アメリカ、コネチカット州ノーウォーク町出身のホ
リーリーさんが入学、持前の明るさが早くもクラスメー
トにとけこみ、楽しい交流が行われています。

また日中友好条約締結の年ということでもないでし
ようが、先生方の訪中が相繼ぎました。十月、齋藤清
平賀・町田の三先生、十二月、神原・向田の二先生、
いずれも新生中國のエネルギーに感動され、日本の現
状をじっくり見直す思いを強くいた御様子でした。この体験を今後の教育活動に期待したいと思いま
す。

学園近況

同窓生の皆様へ

米沢女子高等学校

校長 九里茂三

皆さんお元気でしようね。私は相變らずで、今は卒業学年の為の最好的の指導、そして来るべき年度への準備に忙殺されています。さて三年生のホームルームで、卒業後の心がまえについて話している事を紹介して、御批判をいただきたいと思います。

私は、日本の現状が非常に異常だと考えて居り、今のうちに考え方を修正しないと、大変困った事になりそうな気がしてなりません。

その第一は途方もない大量消費、俗に「使い捨て時代」といわれる傾向についてです。一般にこれが繁栄だと考えられ、それが更に追求されていふ事が、とても恐ろしいのです。ガラクタが巷に充ち、その為に自然破壊は勿論、人間の心までが汚染されている事に気づかないとはすれば、これは恐ろしい病気だといつてよいわけなのです。現代人は、それこそ平あやまりにあやまらなければならぬのに、あやまれば自分の非を認めた事にならないのに、相手に負けず劣らずです。なるべく多く賠償金をせしめる為には、そう簡易になつてはならない。医学的にはもうすつかり直つても、なおついていないと云い張るので医者もあきれてしまうという事でした。文明とか、物をよりも重視する社会の、人の心に及ぼす病へいは、かくの通りなのです。

第二には、ガラクタの氾濫と、それによつて汚染され行く人の心の貧しさです。或る知名人の話を引用します。西ドライツで親しくしている友人の新宅に呼ばれて、訪ねてみたら、立派な家があるだけで、家具らしいものが殆ど無かつた。不思

度は卒業学年の為の最好的の指導、そして来るべき年度への準備に忙殺されています。さて三年生のホームルームで、卒業後の心がまえについて話している事を紹介して、御批判をいただきたいと思います。

講に思つて聞いてみたら、いとも平氣な顔で「気に合う家具が見つからないのです」というだけの事でした。日本人の新家祝いの、あの飾り立てたガラクタと、とても対称的に感じられたというのです。彼らは、家は勿論家具までも「末代物」と考えて居り、従つて家によつては先祖代々受け続いているものも多いわけなのです。そこにドイツ人の頑固とも見える伝統への誇りが感じられるわけがあるのです。それは服装についても云える事で、祖母やその又母が手づくりで縫つてくれたという、刺繡も見事な民族衣裳が、彼女らの誇り高い財産で、それが娘へ孫へとうけつがれてゆく、その辺にドイツ人らしい落ちついた心情や、豊かな文化的流れが生れてくるというものです。それに比して日本の娘さん達と来たら、一過性の流行にたえず心をいため、而も翌年には様変りして着ようもないものをうず高く積んで、物置を狭くしているのが一般じやないかと思われてならないのです。根無し草のよくな主体性のないフワフワとした風潮が、人間の心を焦りと不安へからたてゆく、これが日本の現状なのではないかと、そ

(追記)
何から書きだしたらいいのか思い迷つて居ります。目をつぶると学校の火事の事が昨日の事の様に浮んで来ます。蒲生のお母さんが目に涙をたくさんためて、「たけ子、学校が火事で先生が学校に行つたからお前も早く行きなさい」と私の家にこられ、私はぶるぶるふるえながら隣の道子さんと、走っていった事がます頭にうかびます。焼け残った教室で、裁縫の時間に九里とみ先生の訪問をうけたのを覚えています。新しい学校が出来上るのを子供の様に指折りかぞえた事など、メリーゴールの様に思い出しています。

故郷を離れてもう23年も過ぎてしましました米沢の町はどんなにか変わることでしょう。私の姉の息子が親切に九里学校の会員名簿を送ってくれました。主人の職の事でビッグバーグからここボストンに移りまして、いそがしくそれを見ることが出来ませんでしたがやつと私の心も落ちつきましたので、会員名簿を取り出して、昔の思い出にふけて、まとまりのない事を書いて居ります。同窓会報に依りますと、学校は大きくなり私が生徒であった頃とちがい、いろいろなコースがあり、それに外国とのエックスチェンジステューデント(交換学生)等もあるとのこと、遠いアメリカより九里学校の発展を心から喜んでいます。それから同窓会報のスタッフに感謝しています。とても良いニュースで学校のムーブメント(動き)が良く解りとても有難く思っています。学校の事で何か私で出来る事がありましたら知らせて下さい。

う思うのです。私は、卒業する皆さんに、「本物で自らを鍛えなさい」と申しているのはその事なのです。マンガやテレビや週刊誌で、貴重な青春を

う思うのです。私は、卒業する皆さんに、「本物で自らを鍛えなさい」と申しているのはその事なのです。マンガやテレビや週刊誌で、貴重な青春を

ごまかして生きていはならない。お金を、「本物」に接する為に、本物を手に入れる為に使うんだよ

アメリカからの手紙

昭和10年度卒(旧姓片平)

6月24日

ミセス・タケベ・マリノースキ

Mrs Takebe A. Malinowski

待望の九里幼稚園

いよいよ四月開設

強くやさしい男の子 やさしく強い女の子

かねてから噂があつて、学園関係者ははとより、一般市民の方々も待望していた九里幼稚園が米沢女子高等学校に併設され、四月から開園の運びとなつた。

○ それではなぜ「幼児教育」を初めるか。その理由を九里校長先生が昨年十二月の学園通信に

のせた文章の中から探してみよう。

『……第一に、親達と一緒に子供の育て方を考えてみたい』ということである。最近の親達の中には子供のための朝食も満足に作らないものもいる。又、子供の遊びや生活、習慣についても、親の影響よりテレビ等の虚像の中に生きていて、子供達が自ら生きるという人間が一番大切なものを見失っている。即ち文明が私達人間の主体性を押し潰していく現実を回復させたいからであると述べている。

○ 米沢には立派な生活の伝統がある。私はそれ等の人間らしい生活の伝統を、現代の目でしつかり見つめて、次の世代に残す義務がある……』とも述べている。

○ それでは九里幼稚園は何を目指として幼児教育を行うか。それは端的に云つて次の三つの事項に制約される。

第一 心身ともに健康で、積極的な意欲をもつ子。

「強くやさしい男の子、やさしく強い女の子」

第二 人間味豊かで社会性に富む子供

第三 子供達がそれぞれもつてゐる個性を早く発見して、子供の創造性をうんと伸ばしてやりたい。

以上の三つの目標の下に、九里幼稚園開設に当つて、九里校長先生は次のような基本構想を打ち

たてたのである。それは、幼稚園を子供の学習の場であると共に、親達の文化的社会的学習の場として、父母と教師が共に手とり合つて相互に研修を重ねたい。更に、幼稚園の建物 자체を、健康な遊びのために、周到に計画された教育空間として捉え、その指導を21世紀教育の会の長倉教授に仰いだことである。即ちオープンプランシステムを採用し、遊具や環具も亦同会の試作品を備えて、子供の夢を育むことを目指している。そして子供を直接教育指導する教師の選考も厳選し、優秀な人材を揃え、女子職員の他に体育、音楽、造型等は専門の男子職員を当らせることにしており、

又、学級当りの子供の数を少人数として、きめ細かな指導を考えている。その他特に、小学生迄を含めた少年少女、幼児のための才能開発の場として、音楽、絵画、造型、舞踊等の特別指導も開設したいと考えている。とに角、山形県は勿論東北にも珍らしいようなユニークな幼稚園教育が本年四月から開設されることになつたのである。

NHKの教育テレビによく活躍している幼児教育の権威者、亀田佳子先生（21世紀教育の会務専理事）も当学園に来られ、校内の準備委員会に諸種のアドバイス、指導等を精力的に行つた。尚先生は今後も當時、来校されいろいろな面で御指導を頂く予定になつてゐる。

尚、最後に同窓会の会員の方々は、御誘い合わせの上、九里幼稚園を見学して、職員達にいろいろ御助言、御鞭撻を頂きたいと思います。又、会員の方々の御子さんは勿論御知り合いの方の御子さん方が居られましたら、入園させて頂き、九里幼稚園の今後の発展を期したいと存じております。

（山崎時夫記）

ちよつと
ほめすぎかな？

竹田栄司

ワイフを語る

頗りみれば結婚生活十七年目を迎えるとしています。

私共夫婦にとり妻は、私が結婚を契機に始めた仕事を手伝う傍、家事を出し、さけでは通れぬ閑門を夢中で送つて來たと思います。

家業（貿易商）も十六年間活動を繰返す状況下にあって無から有を生ずるを助けております。そしてようやく第二子

（長男）も小五に成長し家族四人健康に恵まれ将来へと無限の可能性とその実現に夢を託しております。とりわけ、彼女は家族の誰よりもハッスルし、目下きも着付の先生として家を外してのはばたきをしております、清潔好きな性格で朝は一番に起き、朝食を作り、掃除も健気に済ませて出て行く様は天晴です。職場の因縁関係もさる事乍ら感受性に富む彼女は栄養素なる土産物を持帰りその洗脳効果を御披露し私にアドバイス的助言をして與れます。これも彼女の偽りなき創造の建設的配慮であろうと思ひます。

育児と言ふ名の足枷を解れたとき、彼女の身に潜んでいたもろもろの欲念の魂が浮遊し始めたが、早く何か独自で経営したいと諂言を繰返す事しきりです。経済感覚が極めて鈍い彼女を視る時、哀れ果てなき夢のようですが、正夢を授ける如く心ゆかしく生き続けてほしいと願つています。

型いつばみが華麗に開花する如く心ゆかしく生き続けてほしいと願つています。

北風やあとで芽をふけねません。そして夢境の天女よゆつくり、じつくり、り



（妻）竹田博子

昭和三十五年度卒

記念 音楽会 を聞いて



同窓会主催の、一大行事として行なわれて来た記念音楽会も、今年で十三年にもなります。今年は、多くの人の御希望により、立川清登氏をお招き致し、あの何んとも云えぬバリトンのお声で、樂しく秋の夜の一時を過させて頂き、何かしらこのせわしい世の中を生き抜く新しい活力を頂いた数々の懐かしい曲目をおききし、僅か二時間余の時間をすつかり仕事の事も總べてを忘れ、本当に楽しめた。とすれば、自分の事のみに生き様としなければならない現在の社会状態の中で、こうした集において「アラ先生お元気で……」「アラシバラク……」こうしたはづんだ声が、あちらこちらで聞えて参ります事は、素晴らしい事だと感じ参りました。こうしたはづんだ声、和やかなお顔、人と人との触れ合いが、毎年音楽会を継続出来るそして又、充実する基にもなるでないかしらと思いました。

忙中の閑を見出し、こうした世界に豊かな心を求めて、生活して行く事も、必要ではないかと私は考えております。又音楽会の券をお持ちすると、「今年はどうなた」と喜んでお引受け下さる心ある方々には、本当に感謝しております。

昭和52年度卒 中野 はるみ

立川清登さんの生演奏を初めて拝聴しました。持前のユーモアで、会場をとても樂しませてくれました。

彼の演奏している時の表情は、なんともいえないほどすばらしいと思いました。まさに、その役になりきっているため、どこの言葉で歌つても、意味がよくわかりました。「ノミの歌」というのがありました。ビヨンビヨンはねる小さいノミを、あのぐらいユーモラスに歌いこなせる人はめったにいないのではないかでしょうか。立川さんが子供の頃、ノミに悩まされて困ったことを思い出して歌つてくれたせいかノミを知らない子供達も、興味深そうに耳を傾けていました。

ゲストとして出演してくださった、武かおるさんとも意氣がぴったりあつていて、いいコンビでした。

この演奏会で立川さんとのふれあいが、私達との間に大きな火をともしました。若者から老年寄りまで親近感がわき、楽しい演奏会でした。

No. 2

職場訪問

昭和37年度卒

栄養士 安部 良子さん

幼い頃の給食の時間を思い出してください。献立表を先生から頂いて「今日のお菜は何かな」と楽しみにしていました。そんな懐しい思い出が湧いてきたことだと思います。今回は市内の小学校の学校給食の献立作成や子供達の栄養指導や管理をたったお一人でやっていらっしゃいます安部良子さん（旧姓宗川、昭和37年卒）をお訪ねしました。市役所の6階に学校教育課、学校保健栄養士として籍を置いていらっしゃいます。

在学中は生徒会活動（生活部）をなさったりして、大変活発な女学生の様でした。卒業後、米沢女子短期大学栄養科を出られまして、1度県外でお勤めしていらっしゃいましたが、やはり自分の郷里が自分に向いていると戻ってこられてこの仕事をついて今年で13年目だそうです。今だから言えますけど、「人間関係の面や仕事への責任の重みやらで悩んだ日々もありました」と心の中を打ちあけて下さいました。

さて早速、給食の実態についてのお話を聞きましょう。最初に給食の目的ですけれども、先生と生徒の対話や生徒同志の心のつながり、そして社会性を身につけさせること、更に正しい食生活の指導などです。その為には子供達の嗜好に合わせて献立を洋風化にしたり、それから現在児童の体力低化が問題視されており、栄養の面では特に気をつけています。正しい食生活と言いましてもその責任を、どうしても学校だけにあると思われるがちですのでお母様方も認識をもっと深めて欲しいものと希望してらっしゃいました。

学校給食

この人から作られる



→ その他としまして、社会問題となっています先割れスプーンについては、衛生面、財政面その他の問題があるので実施に至っていないそうです。また米飯給食は現在3校（週2回）だけ実施しています。そして給食実施の賛否両論。そんな諸問題を常に抱え込んでいらっしゃる安部さんですが、持ち前の明るさと粘り強さでなんなくこなしていらっしゃる姿を拝見してまいりました。「まだ私の理想とする給食実施については沢山の問題が残っていて思う様にはいきません。これからも小学生全部の母親がわりとなって子供達から喜ばれる給食になるよう取り組んでいきたいです」と力強く語って下さいました。我々インタビューはこのことばに子供達の健康をしっかりと見守っていて下さる方だと安心していました。

ではちょっと素顔をのぞいてみましょう。お宅に帰ると小学校2年生の男の子のお子さんのお母さんです。仕事との両立で1人で3役もこなしていらっしゃるのは仕事への生きがいもさることながら何んでもやろうという人生目標を持っています。女性が仕事を持ちながらの家庭との両立はこれから先もテーマになりますが、女性は常にひかえめにと言う安部さんのモットーでこれからも多方面で頑張って頂きたいと思います。細かな心配り、目立たない努力、本当に一つの事に地道にやっていらっしゃる安部さんの陰の力に敬意を表したいと思います。

（昭和45年度卒 永井記）

ハッスル!!

かあちやん

私の消費者運動

昭和二十一年度卒 高橋 貞子

子供も中学生、高校生になり、どうやら学校の仕事も落付、割合、気ままな生活環境の中にありますとき、公民館主催の婦人教養講座やママさんコーラスと週一回の集まりを楽しみにしておりました。そんな時、米沢生活学校の話を耳にしましたのが今から七年前になります。それから私の

みんなに
はぐくまれながら
頑張ってます。

婦人警官 小形真津子

只今、私、20才、高校卒業後、直ぐに社会に出ました。フリーな仕事を……と夢を見ていたのですが、何故か一番規律の厳格な所で今はハッスル中です。以前は何故女性がお茶出しや掃除をしなければならないのか、男性並みの仕事が出来れば世の人達も認めるのではないかと浅はかにも考えていきました。しかし、自分は無力であり、それに達する程の能力もないことを、直ぐに悟られました。仕事はこの三月で二年ちょうどです。実際に仕事をしてみると、まだまだ納得のいかないことがばかりです。「自分に合った職業」ということをよく耳にしますが、それに恵まれる人は数少ないと思います。職業に自分を合わせるという方が多いと思います。私も、婦人警察官の試験を受けた時、面接で、「どうしてこの職業を選んだか」と問われ、まよわす「性格的にも自分に合ってると思いません」と答えたものでした、が、いざ仕事についてみると、理想と現実とのギャップが大きいことを知らされました。

さてそれからの日々といふものは、「本当にあまりさん?」と首をかしげる様

P.C.Bなどに依る食品汚染の問題、冷凍食品出始めの試食会、五千円化粧品と百円化粧品の質的問題と価格についての勉強会、一方では物価上昇と不安定な生活、又石油ショック以来、消費は美德なりの時代から、物を大切にする時代にと一八〇度転回しました。一時はトイレットペーパー、チリ紙など私達の生活に欠かすことの出来ない石油、プロパン等の燃料さえ不足となり、それに伴つて起る色々な問題。最近では物を大切にする運

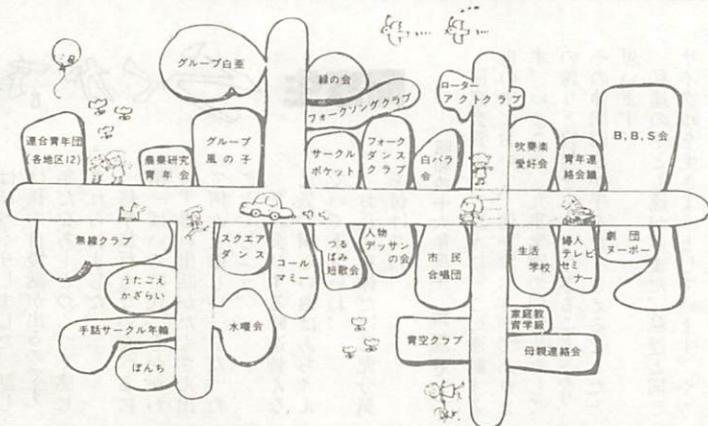
な、先天性のドジさかげんを發揮!けれども、学校時代、身についた底力で山越え、谷越えの毎日です。なにはともあれ、この社会に飛び込んだことは、私にとって充分に満足であると思つています。確かに目を覆いたくなる様な事を見、耳を塞ぎたくなる様な事を聞くことが、往々あります。が、周囲の人達、または安全教育等で見る子供達の顔、赤ちゃんから私よりずっと年上の人と接する時、色んなことを教えられました。時には、取締りの際の意見の食い違いがあり気まずい思いをして一日気が減入りますが、「誰に与えてもらおうのでもなく、誰の力をかりるのでもなく、自分の手で、自分の力で、自分の心で、唯一一度の人生を生きていきたい」と心に思いながら生きています。

こんな私の人生でも、少しは役に立っているのかなと小さな兆しを大切にともしながら、毎日仕事をしています。

活動が活発となり、私達会員も三年前より全市を対象に資源を大切にする運動の一つとして資源回収や不用品交換会、リフォーム展等を実施しております。これは、皆様のご協力に依りまして大変期待されている運動です。又毎日の買い物も良く表示を見て物を選び、食料品は添加物の少いものと選んでいます。近い食卓は鮮かさが薄くなつたようですが家族四人は健康そのもので、いつもはがらかに花の道、お茶の道も勉強しながら、安全で豊かな暮らしをと願っています。沢山の仲間作りに努力し、気持だけはいつも若く中年の魅力を發揮し楽しい人生を歩きたいと思っております。

(昭和五十年度卒)

サークルのれん街



サークルをさがしてみました。
同窓生のみなさん一緒に活動しませんか?



昭和十八年度卒

金谷伸子



九里学園同窓会 昭和53年度予算

収入の部

項目	53年度予算額
繰 越 金	40,303
入 会 金	432,000
終 身 会 費	864,000
銀 行 利 子	10,000
仮 受 金	1,290,000
合 計	2,636,303

支出の部

項目	53年度予算額
運 営 費	446,303
a. 事 務 費	(10,000)
b. 通 信 費	(30,000)
c. 会 議 費	(30,000)
d. 慶弔 費	(50,000)
e. 人 件 費	(300,000)
f. 雑 費	(26,303)
事 業 費	400,000
a. 音 楽 費	(100,000)
b. 研 修 費	(130,000)
c. 会 報	(100,000)
d. 会 員 証	(20,000)
e. 校 歌 保 存	(50,000)
基 本 金	500,000
繰 越 金	1,290,000
合 計	2,636,303

編集あとがき

編集に手間どってしまいまして、少し遅れてしまいました。同窓生皆さんの活躍が活発なほど面白い会報になります。会員皆さんの声がもっと身近に聞く事が出来ましたならば更に充実した会報になると思います。

皆様の御意見御投稿をお待ちしております。

帰路につきました。同級生とは特別な懐しみのあるこんなにもいいものかと思いました。語り合う事がどんなに大切になりました。私の友情よ何時までも願う次第で御座居ます。同窓会の一部をベンにしてみました。

主婦としてしっかりと家庭を守り通してこられた同級生皆さんの笑顔と笑顔！

今年は、九月九日・十日と小野川の展望のよい旅館の一室にその笑顔が集つたのです。もう十年も続きました。(途中四年位休んだかと思います。)毎年お会いする方や、三十年ぶりの友・千葉・仙台・新庄から、ちつとも昔と変わらない笑顔がそこにはありました。皆さんさぞかし悲しみも喜びもあつた年月だったろうに思います。恩師加藤こと先生をかこみ、夕食の時は昔の校歌が流れ、しばし学生に返つたひとときでした。お茶のひと時には、お孫さんの事やら職場の話、商売の中心になつて居られる方、趣味を話される方、おいしい漬物の漬け方や、これから私達はどう生きるべきなど、話は続きました。五十年の人生の味が部屋一パイにただよいました。夜は時間忘れ、ホロヨイ気嫌になつたり、すっかり独身時代にもどつて解放感を味わいました。私はこのひと時の場がどんな良薬よりも生き、心のかてとなつたのではないかと、うれしく感じられたのです。

中には亡くなられた方も居ますが、これも人間模様とは、喜びと別れの道なかと深く感じさせられました。……そして年と共に強く又心細かに各人の道で素的な母親・素的なおばあちゃん目ざしてほしいと思いました。一夜の心のぬくもりがさめやらないまま……又来年の再会の約束を中心に記して……遠く、近くと帰路につきました。同級生と一緒にいました。

晴しさに生きるはぐくみのある事を心の片角で、ささやく時がある。その中に人生の数年が過ぎて、主婦としてしっかりと家庭を守り通してこられた同級生皆さんの笑顔と笑顔！

今年は、九月九日・十日と小野川の展望のよい旅館の一室にその笑顔が集つたのです。もう十年も続きました。(途中四年位休んだかと思います。)毎年お会いする方や、三十一年ぶりの友・千葉・仙台・新庄から、ちつとも昔と変わらない笑顔がそこにはありました。皆さんさぞかし悲しみも喜びもあつた年月だったろうに思います。恩師加藤こと先生をかこみ、夕食の時は昔の校歌が流れ、しばし学生に返つたひとときでした。お茶のひと時には、お孫さんの事やら職場の話、商売の中心になつて居られる方、趣味を話される方、おいしい漬物の漬け方や、これから私達はどう生きるべきなど、話は続きました。五十年の人生の味が部屋一パイにただよいました。夜は時間忘れ、ホロヨイ気嫌になつたり、すっかり独身時代にもどつて解放感を味わいました。私はこのひと時の場がどんな良薬よりも生き、心のかてとなつたのではないかと、うれしく感じられたのです。

案内がありましたら、きっとと参加しますので、また、企画して呼んで下さいね。と言つてまたの会を楽しみにお別れしました。



我クラスには日本マーリスト山形営業所の奥様や、旅館に(葉山の糸屋)嫁がれた方がおられますので、そちらの方のお世話を、女の曲り角である、「三十三才の年直し」の会を持ちました。そろそろ、子供の「おむつ」から開放され、遠出もできる頃となりましたので、めずらしいメンバーも集まる事が出来ました。嚴かな神主様のお祓いの後、いつも作る立場が今日は、ゆつくり、お頭つきに、お酒をいただき、大きな、風呂に、「修学旅行以采ね」とはしゃぎながら入りました。子供達は、同じ年頃でしたので、すぐ仲良くなり所狭しと遊びまわり、大変楽しい一夜を過す事ができました。

一年に一回家を離れて、こんな会が出来たら楽しいでしょうね。案内がありましたら、きっとと参加しますので、また、企画して呼んで下さいね。と言つてまたの会を楽しみにお別れしました。

昭和三十九年度卒

寒河江敏子

その他のクラス会

昭和十八年度卒

朝倉陽子

四十年三月、夢と希望を持って卒業した、乙女達が、早くも三十三才となりました。

我クラスには日本マーリスト山形営業所の奥様や、旅館に(葉山の糸屋)嫁がれた方がおられますので、そちらの方のお世話を、女の曲り角である、「三十三才の年直し」の会を持ちました。そろそろ、子供の「おむつ」から開放され、遠出もできる頃となりましたので、めずらしいメンバーも集まる事が出来ました。厳かな神主様のお祓いの後、いつも作る立場が今日は、ゆつくり、お頭つきに、お酒をいただき、大きな、風呂に、「修学旅行以采ね」とはしゃぎながら入りました。子供達は、同じ年頃でしたので、すぐ仲良くなり所狭しと遊びまわり、大変楽しい一夜を過す事ができました。

一年に一回家を離れて、こんな会が出来たら楽しいでしょうね。案内がありましたら、きっとと参加しますので、また、企画して呼んで下さいね。と言つてまたの会を楽しみにお別れしました。

精一ぱいの時代にもかかわらず思い出話がたくさん出て何んと楽しい一日だったことでしょう。又お会ひする時迄皆んな元気で明るいおばあちゃんでいて下さいね。

お互に身体だけは充分気精一ぱいの時代にもかかわらず思い出話がたくさん出て何んと楽しい一日だったことでしょう。又お会ひする時迄皆んな元気で明るいおばあちゃんでいて下さいね。

お互いに身体だけは充分気精一ぱいの時代にもかかわらず思い出話がたくさん出て何んと楽しい一日だったことでしょう。又お会ひする時迄皆んな元気で明るいおばあちゃんでいて下さいね。

お互いに身体だけは充分気精一ぱいの時代にもかかわらず思い出話がたくさん出て何んと楽しい一日だったことでしょう。又お会ひする時迄皆んな元気で明るいおばあちゃんでいて下さいね。

卒業年度	本科	家庭科	被服科	家庭科1.2	S3年度											
					12年度	24年度	36年度	38年度	40年度	35年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度
52年度	51年度	49年度	48年度	45年度	43年度	40年度	38年度	36年度	33年度	32年度	31年度	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3	3の3
8月15日	8月14日	12月28日	8月16日	1月16日	8月14日	8月12日	8月10日	8月8日	8月6日	8月4日	8月2日	8月1日	8月16日	8月15日	8月14日	8月13日
29名	23名	26名	28名	30名	20名	16名	15名	19名	20名	20名	20名	10名	11名	9名	20名	16名
会 平	津 和	富 よ	ダルマ寿	天 明	永 龍	太 駒	サンルート	秀 の 家	招 湯 庄	招 湯 庄	招 湯 庄	喜 久 好	有 馬	塩 原	吾 妻	莊
屋			寿	台	軒	苑	駒	駒	苑	苑	苑	好	館	原	妻	所

同窓生



昭和四十六年度卒

角屋せつ

同窓会員として思うに、この激動する世の中において、何をすべきかであります。いまこそ、九里学園の同窓生としての誇りと自信をもって生きることであり、その仲間同志が手をたずさえることだと思います。

私たちの子ども達が、また、私達と同じサイクルを生きようとしています。やつぱり、これから時代は、卒業した母親達の考え方ひとつにかかるように思います。いま、ぶるつと身ぶるいを感じています。この仲間大事にしたい。みんなと助け合いたいと……。